

第三章

ジーンズ周辺のカジュアルウェアの知識

はじめに

この小論では、ジーンズのボトムから派生した各種カジュアルウェア（トップスアイテム・レディスアイテム）等の沿革と現状、および将来について、簡単に素描してみた。メンズアイテムとして本来のデニムジーンズから種々の開発が行われ、現状の「カジュアルウェア」があるが、さらに、ジーンズを踏まえて将来を展望するヒントとしていただければ、幸いである。

（ジーンズボトムスの商品知識については、'84版「ジーンズハンドブックⅠ」を参照されたい。）

Ⅰ．カジュアルウェアの今日の背景

一般的に「カジュアル(Casual)」の語義には「一時的な…」あるいは「気紛れの…」といった意味がある。総じて衣服には、フォーマルな空間、公式の空間で着るウェア、またワーキングウェア(仕事着)として着る領域があるが、それらに対比して、そのいずれにも属さない時間と空間で着るウェアを総称して、広くこれを「カジュアルウェア」ということが多い。この小論では「ジーンズ」が、そもそも「ワーキング」から発生して、いわば普遍的に以前のどの領域にも属さないウェアとして広く受けいれられていることから、カジュアルの原点であるとの解釈と認識に立って、そこから派生したカジュアルウェアについて解説を試みてみたい。

別表第一図は、統計による余暇関連支出の伸びを示したもののだが、年々、余暇時間の増加にともない余暇関連支出は増えている。ただし、すべてそれが消費支出、とりわけ衣服に充当されているのではないが、衣服の中でも特にカジュアルウェアといわれるものに対する支出が増大していることは、事実であろう。

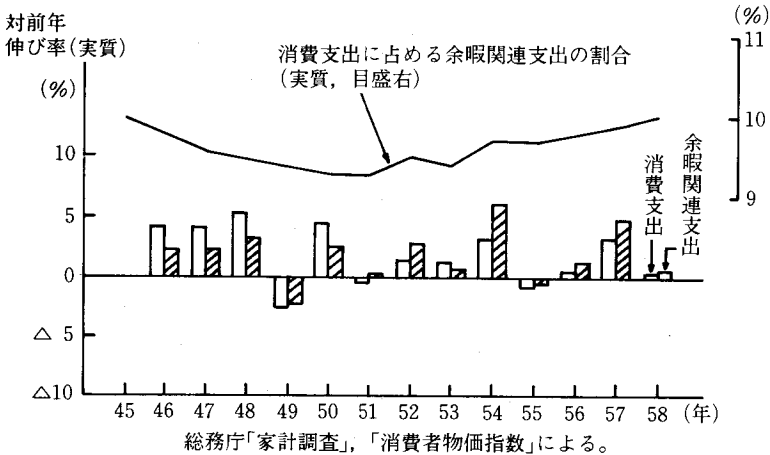


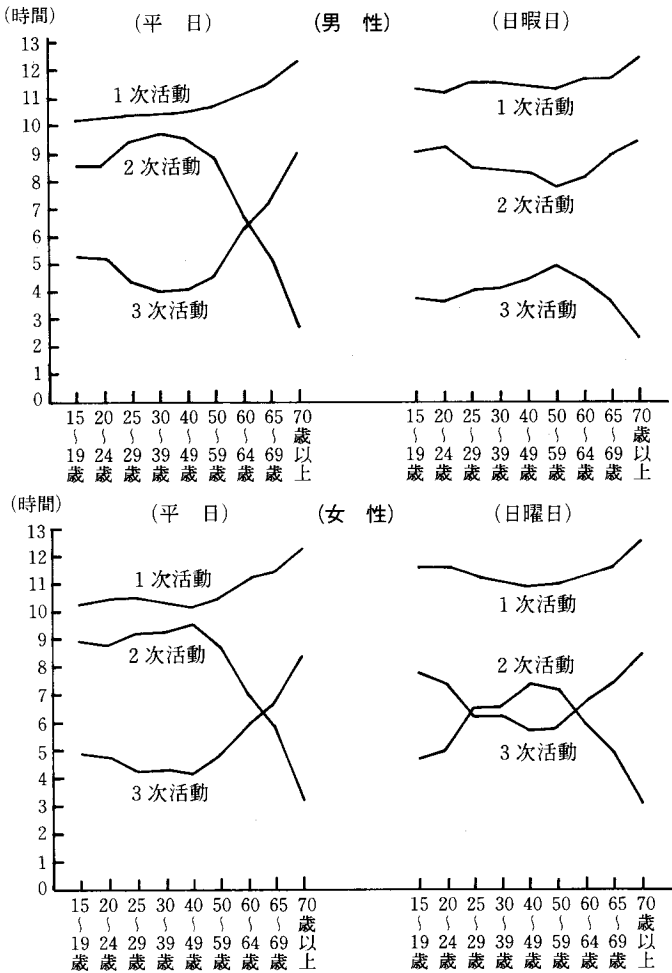
図1 余暇支出の増大

今日、わが国におけるカジュアルウェアの着方はどうのように分布し、どのような着用層を示しているか、次に第2図をみてみよう。

同図は年齢別に、平日と休日とに分けて、男女についてどのような活動をしているかを統計的に調査したものである。ここでいう第1次活動とは睡眠、食事など生活に不可欠な時間、いわば“必須”の時間帯であって、男女いかなる場合でも、さほどの変化はない。第2次活動とは基本的には仕事、学業、もしくはそれに関連した通勤、育児、買物などのいわば生活のベースになるものであって、家族の構成員は、勤労者であれ、主婦であれ、学生であれ、それぞれの社会における立場に応じて、いわばフルに働く部分である。カーブをみても分かるように当然、老齢になるにしたがって、働かなくてもよいとしてカーブは下降しているが、基本的には若年、中年に至るまで勉学、仕事、家事に精を出すという形になっている。

さて問題は、第3次活動と呼ばれている趣味、スポーツ、休養等の時間帯である。この部分が、言い換えれば「カジュアル」な部分なのであって、この中にカジュアルとは逆の観点として冠婚葬祭、パーティ等のフォーマルな空間があるが、まずは大部分が、自分の気ままな自由な時間とみて差し支えない。カーブにみられるように男女および年齢については著しく内容が変わっていること

若者と高齢者で多い余暇時間(年齢層別生活時間配分量)



1. 総務庁「社会生活基本調査」(56年)による。

2. 1次活動は睡眠, 食事, 身の回りの用事の合計, 2次活動は, 仕事(収入を伴う仕事), 学業(学生が学校の授業やそれに関連して行う学習活動), 通勤, 通学, 家事, 育児, 買物の合計, 3次活動は, 学習活動(学業以外), 趣味, 娯楽スポーツ, 奉仕的活動, 交際, 移動, テレビ, ラジオ, 新聞, 雑誌, 休養, くつろぎ, 受診, 療養, その他の合計である。

図2 生活における3次活動(カジュアルタイム)

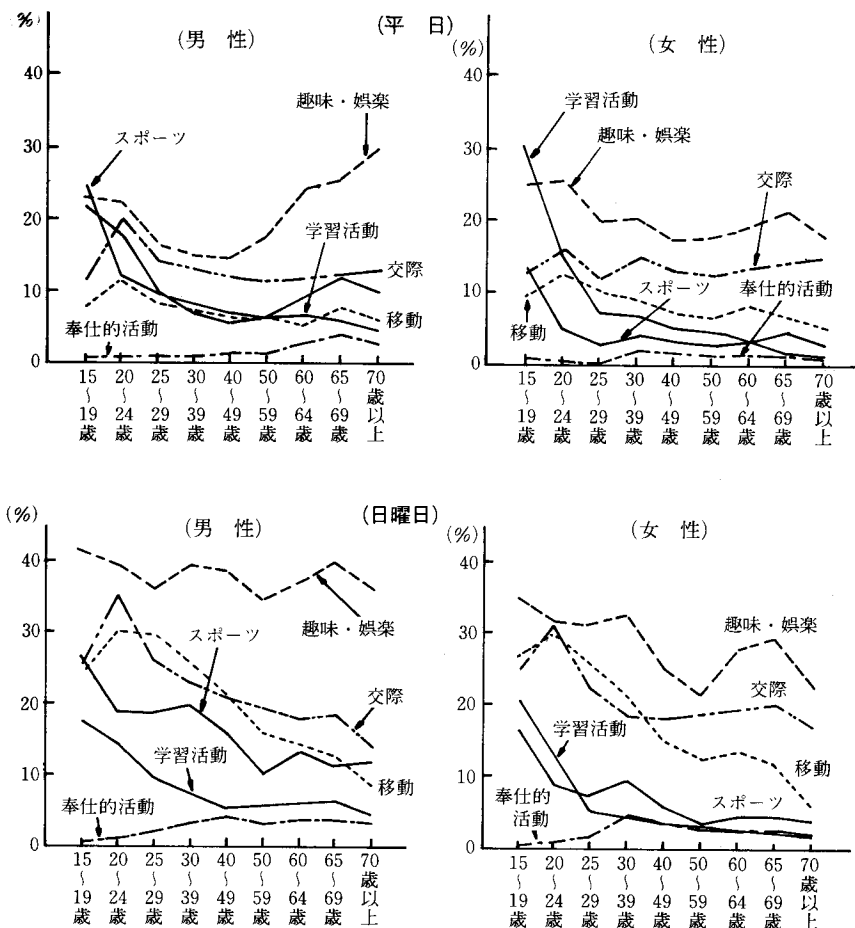
が推察される。すなわち男性にとっては、第3次活動は日曜日に著しく高く、老年になるにしたがって高いといえる。年齢についていえば、平日に第3次活動の高いのは、せいぜい23～24歳までの層であって、実はこの部分がわれわれの本業となるヤングカジュアルウェアのターゲットであることが、改めて確認できる。

次に女子についてみると、日曜日と平日との活動シェアにさほどの変化がないことが分かる。すなわち女性にとっては男性に比べてウィーク・デーからすでに、第3次活動を行う時間と空間、つまり領域があるということが分かる。ここに、カジュアルウェアが男性よりも女性にとってよりビジネス的には重要なアイテムであり、種々のビジネスの生まれる根幹があるといえよう。

さらに第3図をみてみよう。具体的に男女各々が、平日、休日にどのようなカジュアル行動を行っているかを比較したものである。同表からウェア、衣服を必要とする行動、生活行動と、そうでないものととの区別を読み取って、今後のマーケティングに役立つ資料としてみたい。

男性の平日についてスポーツ、趣味、娯楽の領域をみると、若年層においてはいずれも著しく高く、老年層では趣味、娯楽が高い。日曜日では年齢を問わず、ある程度、スポーツ活動、趣味、娯楽活動が行われていることが推察できる。ただし、趣味、娯楽といった一貫的な活動には固有の衣服を必要とすることが、スポーツに比べると比較的少ないことも多いと思われる。ここでいうスポーツとは、純粋スポーツのほかにジョギング等も含まれるので多種多様のウェアが必要とされるであろう。すなわちスポーツといっても、広く一般的なカジュアルウェアとしての対象の領域である。

また逆に、趣味、娯楽といったものは、お茶、お花、映画鑑賞、スポーツ見物等であって、固有のウェアを必要とする領域ではないことが多い。したがって男性についていうなれば、若年層への衣服のマーケティングはここでも重要であることが判読できる。女性についても、ほぼ同様なことがいえるが、ここで著しいのは学習活動なるものが平日において高いことである。これは主として短大生、あるいは勤労以前の形態の若年層、特に20歳前後までが行動していることをうかがわせる。いわゆる「短大族」だが、この領域も実は、カジュアルウェアの重大なターゲットであることが読みとれる。



(備考) 1. 総務庁「社会生活基本調査」(56年)による。

2. 行動者率 = $\frac{\text{行動者数}}{\text{各年齢層人口}} \times 100$

3. 「趣味・娯楽」は、お茶、お花、映画、音楽鑑賞、スポーツ見物等、「スポーツ」は野球、バレーボール、サイクリング、ジョギング、「奉仕的活動」は、施設慰問、点訳などの社会奉仕や地域の道路清掃などの地域共同活動等、「交際」は、知人、友人、同僚などとの付き合い等、「移動」は乗り物を利用しての出発地から目的地までの移動をいい、通勤、通学を除く、「学習活動」は、学業以外で個人の自由時間に行う勉強や研究をいう。

図3 カジュアル行動の分布

以上、生活者の行動様式に照らしてカジュアルな空間が、少なくともマクロの観点からどのような分布になっているかをみてきたが、これらの行動様式は年々、複雑になり、かつ生活の場所と時間は多種多様になっている。すなわち、場が変われば服も変わる——ともいえるわけで、その場にふさわしいウェア、その場に溶けこむウェアとしてのカジュアルウェア、さらにはその服種、色、柄、形態や機能といったものについては今後ますます、衣服上の観点として重要視されるであろう。

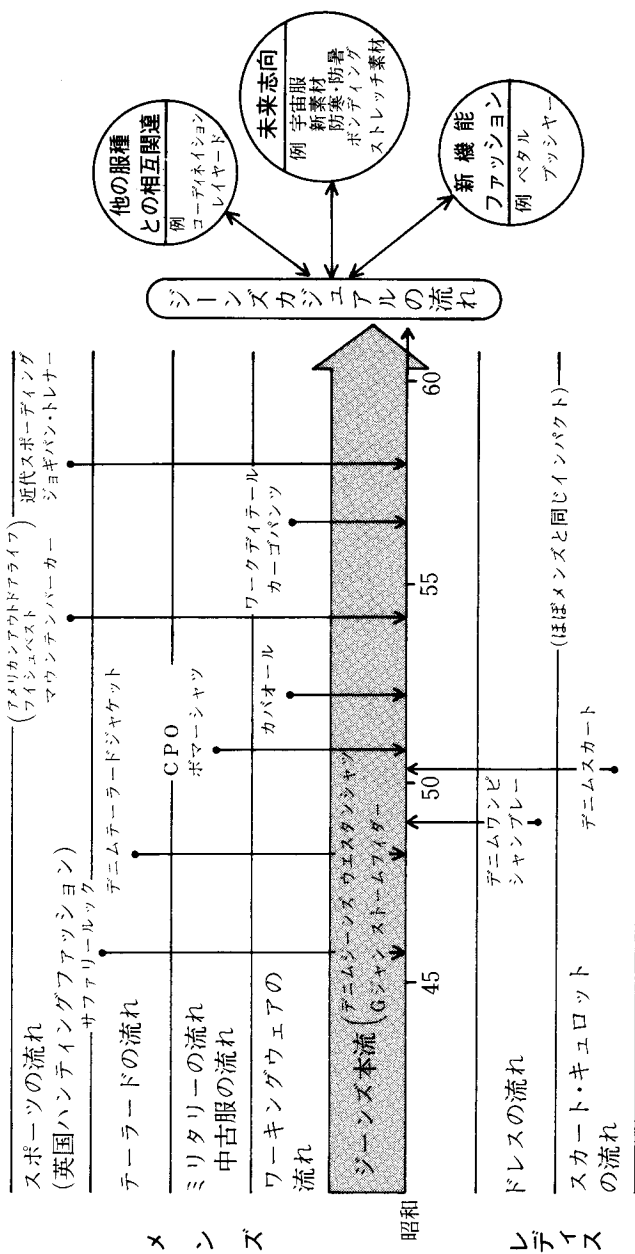
Ⅱ. ジーンズをめぐる「カジュアル・ウェア」の最近の沿革

本来、「カジュアル・ウェア」は「フォーマル・ウェア」に対峙する言葉であるが、伝統的にはイギリス貴族の狩猟(ハンティング)に使われる服種が、長い間、その源泉であった。すなわち、ハンティングジャケット又はガンパッチのついた上衣、あるいは乗馬用ズボン、もしくはボロ用の衣服等がその例であってそこから種々のメンズカジュアルが生れている。

然るに、ジーンズそのものは「ジーンズハンドブック」第1巻で述べられているごとく、本来、アメリカのワイルドウエストを開拓する労働着としての伝統に則るものであるが、日本に導入されたここ約15年間、他の服種の大きな影響を受けてきた。この影響は日本のみならず全世界的に共通であるが、そのインパクトの源を分類すると、大まかに幾つかに区分することができる。

別図のごとくジーンズ本来の流れのほかに、①ワーキングウェアの流れ、作業着としての他のジーンズ以外のワーキングウェアとのインパクトの交流があり、さらに日本においては中古軍服店で扱われたという経緯があり、②ミリタリーの流れも含んでいる。

そのほかに、メンズに関しては、③本来のテラードの流れである、いわゆる“ジャケット”の流れもくみ、特に大きな影響を受けるのが、本来のハンティングファッション「サファリールック」にみられるような伝統的なスポーツ、およびアメリカのアウトドアライフにみられるような④スポーツ、さらには近代の新しいスポーツの影響を大いに受けていると言っても過言ではない。したがって、このように他の服種、他のT・P・Oに適した服種との相互関連なしにはジーンズを語ることはできない。



ジーンズをめぐる最近のカジュアルの歴史

次にレディスについてみるならば、本来、デニムジーンズを女性が着用しはじめたのが昭和48年ごろからであるが、女性固有の嗜好性にもとづいてドレスやスカート、キュロットのインパクトを受けた商品が昭和50年前後に相次いで登場した。デニムを使ったスカートやキュロット、さらにはワンピース（ジャンプ使い）等であって、その流れはいまだに続いている。その後、レディスについては男女、ユニセックスの原理に則って、ほぼメンズと同様のインパクトをあたえられ、男女ほぼ似通った商品形態が今日まで続いている。

さて、現在のありさまをみるに、そのインパクトの各々の伝統的な流れをくむのみならず、新しい傾向が出ているといえよう。その一つは、新しい機能を持ち込んだファッションタイプのカジュアルウェアとしてのジーンズの登場であろう。ごく最近のペダルプッシャーの隆盛は、本来、サイクリングというスポーツアイテムの機能を盛り込みながら新しいファッション観点を具現した商品として位置づけできるだろうし、スポーツとファッションとの一つの間介在的な結果の商品として、このようなタイプの商品が今後も出てくるものと思われる。

第2に、最近の新素材の登場が大いにインパクトをあたえるであろう。防寒、防暑等の新しい空間へ伸び出していく宇宙服、海底探険服といったものからのインパクト、あるいはそれに受けて開発された素材、現実にはボンディング素材等の新素材が新しくジーンズを中心としたカジュアルウェアにインパクトをあたえるだろう。

第3には、特にレディスに著しいことであるが、他の服種との相互関連がますます図られていくことであろう。すなわち、デニム使いの上衣、下衣のみならず、それに上下に重ねるセーター、シャツ等とのコーディネートもしくはレイヤードといった形でジーンズをめぐるカジュアルウェアはますます多様化し、さらにいえば他の業態との相互交流が図られていくものと思われる。

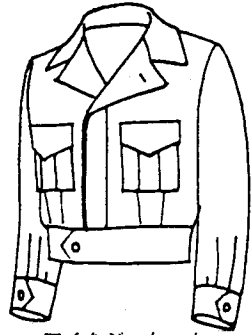
以上、このような沿革にもとづいて現在、生産、消費されている個々の商品アイテムを理解するならば、その背景とともに今後の流れを予測することができるのではなかろうか。

Ⅲ. カジュアルウェアのアイテム知識

(1) アウター (外衣)

① アノラック(anorak)…語源はエスキモー語。上に羽織るという意味で、通常、中肉の長素材を用い、長袖でフードを付け、フード、ネック、袖口、およびウエスト、裾をすべて紐(ストリング)でしばり上げる形のものが多い。機能的には防水、防寒の役目を果たすが、中肉のため機能を重視している。

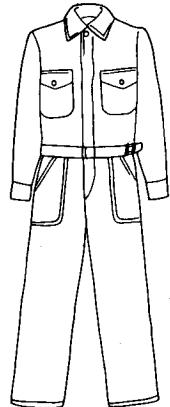
② アイクジャケット(ike jacket) …第2次大戦米陸軍アイゼンハウアーの愛称「アイク」に因むといわれている。襟はノッチドカラー、広いウエストバンドで丈の短いのが特色である。通常はウールメルトンのカーキ色であるが、最近ではアクリル混も多く、色も多様になっている。



アイクジャケット

③ ウィンドブレーカー(windbreaker) …文字どおり防風——風を防ぐという意味で、通常、薄手のジャケット、現代ではナイロンのタフタ等の薄い一枚もので使われてる場合もある。ごく最近では、裏にボアを付け縫いし防寒の機能を加えたものもある。

④ ウェスタンジャケット(westernjacket) …素材はスエードが本来である。インナーチップ(手を下げた状態で指の長さまでの丈)の長さのものが通常であり、インディアンの服にみられるようなヒラヒラした房飾り(首、フリンジ)の付いているのが特徴である。スエードのほかに革製、厚手の綿織物製等が多くみられる。



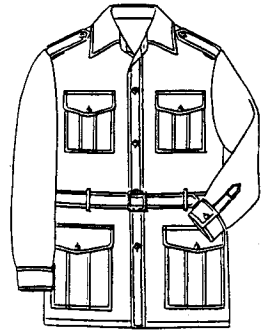
⑤ カバーオール(cover all) …カバーオールとオーバーオールの違いは、一般的には胸当て部分が大きく長袖までついているのをカバーオールという。本来、自動車修理工、鉛管工が着用していたものが、日本の場合、昭和50年前後に導入されてくる。

⑥ サファリジャケット(safari jacket) …「サファリ」とはアフリカ語で「猛獣狩り」のことである。イギリス植民地の男たちが

カバーオール

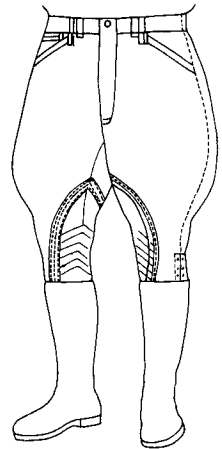
狩猟に着了服であり、通常、左右とも胸および腋の合計4枚のパッチ・アンド・フラップポケットがついている。

⑦ジョドパース(jodhpurs)…通常、乗馬用の長ズボンといわれている。もともとインドの地名であり、19世紀ごろこの地で乗馬用に穿かれていたのを、イギリスを経由して世界にパンツのスタイルとして流行している。膝から下を絞りこみ、膝から上を乗馬に適したゆとりのあるシルエットになっているのが特色である。



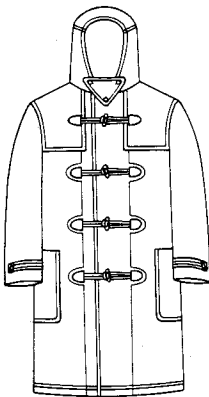
サファリジャケット

⑧Gジャン(g·jun)…通常、Gジャンといわれているものは、アメリカ本国のデニム地を使ったショートジャケットを指すことが多い。まち縫いを多用し、機能的な強度を保ち、乗馬の際の転倒などの身体の保護に使われたものである。近年ではボアや裏地を付与したものも多い。



ジョドパース

⑨ストームライダー(storm rider)…Gジャンの裏に通常ガラ紡のレーヨンやウールの毛布状素材を縫い合わせたもので、主として防寒の機能を有し、かつてのカウボーイたちは、これを着たまま毛布を被り荒野に寝た。

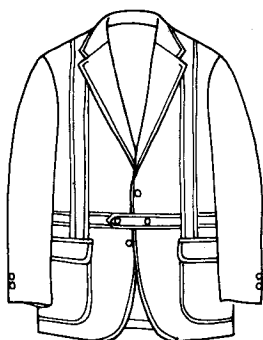


ダッフルコート

⑩ダッフルコート(duffel coat)…もともと、ベルギーの都市名でその地で産出された粗織りの毛羽立った毛織物を指していた。北欧の漁民たちがこの生地を使って、丈は膝まで程度のもので作業および防寒用に着用していたものが、イギリスの海軍に採用され後に世界に流布した。したがって本来は、ダッフルクロスという粗織りだが、現在では英海軍の使用した伝統に則って、ウィルメルトンが中心である。なお、ボタンはトグル(toggle)といい、ストリング(紐)の先に釣用の「浮き」にもなる留め

具のついているのがオーソドックスである。

⑪ノーフォークジャケット(norfolk jacket)…「イギリスカントリースポーツジャケット」ともいわれ、狩猟趣味の本格的な上衣である。前後続きのヨーク、背ブリーツ、ウエストベスト、革ボタン等で機能とファッション性を見込んだものである。通常、ツイードが原則であるが、コール天、革製のものも多い。ノーフォークとは、イギリス東部の州名でそこでの狩猟に多く用いられた、といわれている。



ノーフォークジャケット

⑫パーカ(parka)…本来、西北アジア、現在のソ連中部で頭巾のついた毛織物製上衣を指していたが、その防寒および機能性の上に軍服を経由して流布した。したがって、興味あることに、本来、民族衣裳であったものがミリタリーウェアになり、今日ではヨットパーカのように、スポーツアイテムにも採り入れられている、きわめて面白い例であろう。通常、現在のパーカは、レインパーカのように主として防水性を狙ったもの、ヨットパーカのようにむしろ吸汗性を狙ったもの等、バラエティーに富んでいる。

⑬ピーコート(P coat)…またの名を「ウォッチコート」ともいう。通常、形はダブルブレストで8個ボタン、斜めポケット、裾は手の長さ、大きな襟が特徴である。本来、帆船時代の甲板員の操舵用の服種であるのでダブルブレストで左右どちらから風がきても防風機能が妨げられないようになっている。



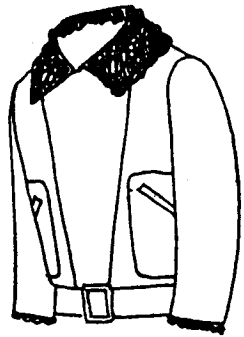
ピーコート

⑭ブルゾン(blouson)…従来、ジャンパーといわれていたものを、最近では「ブルゾン」と称する傾向がある。

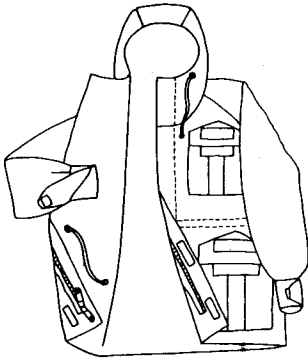
ブルゾンとは、フランス語の“ブルーズ”——“つつむ”という意味がその語源であるが、主として欧州大陸の労働作業等の機能の目的のために、袖口、およびウエスト部分で絞る形で機能的な上衣として愛用されたものであるが、昨今、フランスおよびイタリアのカジュアルファッションの流れを汲んだ流行に則って「ブルゾン」と称することが多い。本来、形態的には、いわゆる“ジャン

パー”とほとんど同様である。昨今では種々の柄行き
のものが開発されている。

⑮ボマージャケット(bomber jacket) …「ボマー」と
は爆撃機のこと、第2次大戦中にその起源をみる。
通常、裏ウールのライニングだが、いまでは裏ボアの
ものも多い。表は革製が本格的なものであるが、綿素
材等のものも多い。



ボマージャケット



マウンテンパーカー

⑯マウンテンパーカ
(mountain parka) …60
年代アメリカのアウト

ドアスポーツを軸に大きく発展した。通常、胸
にはボックスプリーツつきのポケットをつけ、
収容力を増し、さらに両脇にはハンドウォーマ
ーをしたがえた両蓋つきのポケットを用いてい
る。背面にはジッパーつきの大きなポケットが
あり、ここには地図等の携帯物を入れ、同時に
新聞紙等を入れるなど、保温の機能をも持って

いる。素材は、当時のものは60・40クロス、ナイロン60・綿40で機能性と吸水、
保温性を兼用した素材を用いられるのが普通である。

⑰ヤッケ(yakke) … 本来はドイツ語で、登山趣味の連中は戦前、ドイツから
であってスキーまたは登山用に着用されるプルオーバーにフードのついたもの
で、本来は綿製、最近ではナイロン製等のものが多い。

⑱ヨットパーカ(yacht parka) … プルオーバーまたは前ジッパーで必ずフー
ドを用いるもので、袖はゴム、身頃の裾はドローコード(ひき紐)で防水性を実
現する。

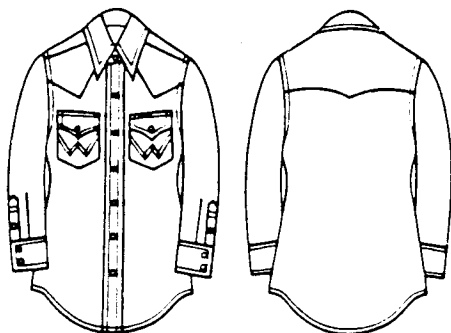
⑲ランチコート(ranch coat) … 艦船のランチではなく、牧場(ランチ)でカウ
ボーイが着用していたことに由来する。袖、襟とも裏にボアをつけるのが正当
であり、機能本性に優れている。

⑳レインパーカ(rain parka) … パーカの中でも特に雨に対する防水性を完璧
にしたもので、ナイロン製などの高密度織物が多い。

(2) シャツ, セーター, 他 (中衣)

①アーミーセーター (army sweater) …第一次大戦から米陸軍が採用したもので、通常、ウール100%で防寒機能と迷彩機能のため土色またはカーキ色のセーターである。中古衣料品等に多くみられる。

②ウェスタンシャツ (western shirt) …米西部のカウボーイが愛用したといわれる形で、とがったヨーク、フラップのついた両胸ポケットが特色である。本格的にはスナップボタンが前立て、およびフラップにつくが、通常のボタンのものも多い。無地、およびチェック柄の綿素材を使う。



ウェスタンシャツ

③C.P.Oシャツ (chif, petty, officer) …C.P.Oとは海軍の下士官の総称であって、彼らが着用してい

ることにヒントを得てデザインされたシャツをいう。素材はウールメルトン。フラップ付きのポケットを2個用い、ロングテール(長い丈)によるやや防寒機能をもたせたシャツである。

④スウェットシャツ (sweat shirt) …スウェットとは「汗」のことで、吸汗機能のために考えられたシャツである。素材は通常、綿メリヤスで裏をパイル状に起毛しているため、俗称「裏毛」とか「裏毛パイル」といわれる。最近この裏毛素材がスウェットシャツのみならず、ジョギングパンツやトレーナー、場合によればアウター等、多目的に用いられ、その安価で機能的、かつファッショナブルな特色により大いに愛用されているホット素材である。

⑤スタッグシャツ (stag shirt) …シルエットはストレートでありアウターシャツとして着用しボトム(ズボンのそと)に垂らす。通常、ウールであり、前後にヨークを用いるシャツである。無地および柄物がある。

⑥タンクトップ (tank-top) …もともとタンクスーツといってランニングシャツがそのままのびたような形のクラシックな水着ルックがあった。その上半身部分をタンクトップと俗称し、ちょうど樽のように筒状の上下水着の上部分のみ切り離して、夏のレジャーウェアの代表となった。素材は通常天竺ニットで

前後にプリント等装飾を施したものが多い。

⑦トレーナー(trainer)…スポーツ選手が競技の前後に羽織るTシャツ型のスポーツウェアである。素材は通常、ニット素材で霜降りのものである。または杣といい、原色で黒に染めた原綿と通常の白い原綿とをミックスしたためにグレーに見える。通常「霜トレ」などと称する。最近ではフードつきのものもあり、この場合は「フーデッドトレーナー」と呼ばれることもある。

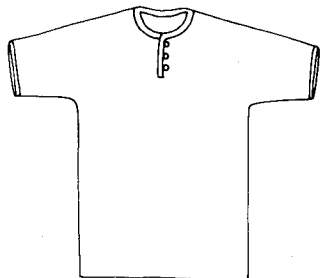
⑧ネルシャツ(nel shirt)…ネルとは「フランネル」の略称である。フランネルはフランスのウール産地名で、それが略されている。したがって、フラノのシャツと同義語であり、通常、無地またはチェック柄で中肉のものが多い。ジーンズカジュアルの業界ではその値ごろ感から量的にも多く販売される。

⑨フィッシャマンセーター(fisherman sweater)…本来、北欧アイルランドの労働着として伝統的に愛用されたものであり、羊毛をいったん脱脂し、さらにアザラシの脂を改めて加え、水をはじき断熱性機能を付与したもので英北部の漁民が愛用していた。したがって本来、生成が通常であるが、近代のものは着色したものも多いし、編み目も独特の縄目模様のもので有名である。

⑩フィッシュベスト(またはフィッシングベストと称する)…近代スポーツとしての釣りに際し、各種の釣り具を上半身につけるため、箱型ポケット、ルア(ギジエ)をつけるためのベルクロ、タモ網をつなぐためのバックDかん等の多機能性をもたせたもので、本来の目的だけでなくファッションアイテムとしても大いに愛用されている。

⑪ベースボールシャツ(baseball shirt)…文字どおり野球の選手ユニフォームにヒントを得たもので、最近、流行している。襟はなく、前開きで襟と前裁ちに沿ってカラフルなタイピングをほどこし、縦縞素材を用い胸や背中に大きな文字を入れるデザインのものが多い。

⑫ヘンリーネックシャツ(henley neck shirt)…正しくはヘンリーレガッタシャツという。チームズ河のヘンリーレガッタに因んでいる。首の部分がパイピングをほどこした独特のスタイルになっている。通常、天竺素材のニットで作



ヘンリーネックTシャツ

られる。

⑬ポロシャツ (polo shirt) …ポロ競技のために機能性、特に腕の伸縮を意図して作られたシャツであり、半袖と長袖がある。素材は、現在では鹿の子ニットのものが多く、ワンポイントブランド商品に多い。

⑭ビ・デーシャツ (B. D shirt) …いわゆる“ボタンダウン”シャツのことであり、襟の襟先き部分をボタンで身頃(みごろ)に固定縫いつけたシャツを総称する。米アイビーリーグの学生たちの愛用したシャツに因んだもので、ジーンズの上にコーディネートする目的でジーンズメーカーも生産している。ドレスの分野では、オックスフォード素材のものが多く、ジーンズ関連では無地シャンブレー、柄ネル等のものも多い。

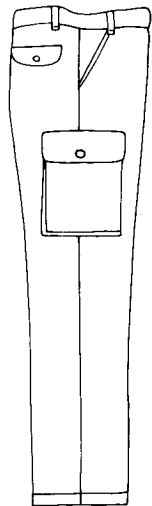
⑮ラグーシャツ (rugger shirt) …ラグビーユニフォーム用のシャツであるが、その横ボーダーの大胆でカラフルな色調から、登山の際、目立つという効用により愛用され広まった。2種類あり、ニュージーランドタイプは、襟開きが1枚で綿テープを使い、ボタンは1個、だい襟なしのものである。他の1種はイングランドタイプで、だい襟がありボタンは3個のものである。両方ミックスされているものも多い。

⑯レスリングタンクトップ (wrestling tank-top) …近年、流行しているもので、レスリングウェア固有の肩部分(ストラップ)が細く長くなり、いわば胸上部を露出するスタイルのものである。全面にプリント等をほどこしファッショナブルなアイテムとして愛用されている。

(3) ジーンズ以外のカジュアル系統パンツ

①カーゴパンツ (cargo pants) …カーゴとは「荷物」のことであり、荷役を行う作業者のパンツ。膝部分に書類等を入れる大きなボックスポケットがあるのが特徴である。

②カーペンターパンツ (carpenter pants) …文字どおり大工の作業用のパンツであり、両脇に奥の深いインサイドポケットを有し各種用具を入れ、さらに右脇にはハンマーを引っかけるフックストラップがあるのが特徴である。最近では若い女性も、これを愛用している。



カーゴパンツ

③グルカショーツ(gurkha shorts)…84年に流行したショートパンツで、グルカとはチベット系のイギリス兵のことであり、彼らは勇猛さで有名だが、その着用していたショーツが流行したもの。特色は折返しの幅の広いこと、ベルト部分が“袋ループ”になっていること。素材はカーキ色のギャバ等である。

④トレイルパンツ(trail pants)…米西部で「道」のことをトレイルと称するが、そこから派生して登山ではなく、単なる平地の山歩き用に開発されたレジャースポーツパンツであり、ヒダのついたポケットで機能的に設計されたものをいう。

⑤ブッシュパンツ(bush pants)…ブッシュとは「森林地」のことであり、米国およびカナダにおいて森林作業等を行う作業用者のパンツである。機能および形態面では、他のトレイルパンツやワークパンツに類似していることが多い。

⑥ワークパンツ(ファティーグパンツ)…ファティーグとは、軍隊用語で「雑役」のことであり、ワークパンツも作業用だけではなく軍隊作業にも多く用いられたことの影響もある。大きな機能ポケットをいくつも有していることが特徴であり、通常、オリーブを中心とした綿ギャバ素材を使われていることが多い。特に近年、ワークパンツのディテールがジーンズに及ぼした影響は大きい。

(4) 婦人アイテム

前述のように、約10年余りのジーンズカジュアルの流れの中で、婦人(レディス)についてはメンズのジーンズカジュアルの強烈なインパクトを受けながら、商品形態やそのアイテムについてはメンズとほぼ同様と見なされるが、前半史においては女性固有の商品開発が多くなされている。それについてスケッチしてみたい。

昭和50～55年の約5年間、デニムおよびシャンブレーで、デニムでは12～6オンスの中肉と薄肉、シャンブレーについても薄肉の特色を生かして各種の婦人アイテムが開発された。特に婦人の場合、素材特性としてドレープ性、シルエットの保持性、軽快さ、優美さといったものがデニム本来の機能性および丈夫さのほかに要求されるので、婦人アイテムについてはこれらの要求特性を実現したアイテムであることが必要である。

その源流は①テラードもしくはドレスの流れを汲むもの②女性本来の服種であるスカート、キュロットスカート、ワンピースといった服種の流れを汲む

もの③スポーツカジュアルの流れを汲みメンズ同様、ヤングレディスに受け入れられる服種のもの——に大別することができる。

別図のように、テラードから流れるものは、たとえばデニム使いのベスト、もしくはデニム使いのジャケット等がある。これらについてはデニム素材のものが婦人に着用され、ある程度、タウンウェア、もしくは外出着としても機能を有することでもはやされ、後にはホームウェアとしての機能すら有することになって、幅広く浸透していった。

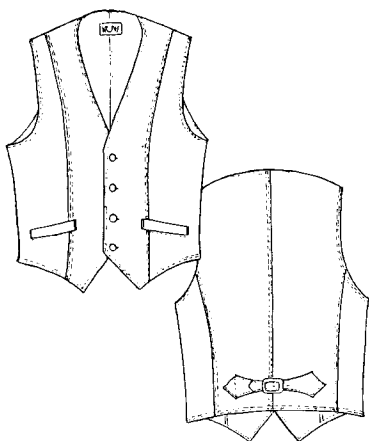
また、スカート、キュロット等、本来、女性固有の服種についてはデニムジーンズのボトムスと同様、その機能性と低廉さが最大の商品ポイントであって、家庭・家事用労働ウェア、もしくは家庭を中心とした買物ウェア等に用いられることが多く、現状でも郊外型のショップで多く販売されている。特にスカート、およびキュロットでは、そのシルエットをタイトないしはセミフレアーにと、種々に変化させることが可能で、ハギの枚数が4枚、8枚、あるいはエスカルゴといったように各種のシルエットとスカートレングスのバラエティを実現することができ、最近までデニムの大きな用途として位置づけされていた。

また、最近のスポーツ、およびメンズカジュアルの流れを汲むもので、ブルゾンもしくはスペンサータイプのもがあり、さらにはロングコートまで見受けることができる。特にスペンサーは、イギリスのスペンサー伯爵が着用し流行させたという服種であるが、前フロントがダブルになっているものがあるように、本来、優美な形のもがあり、最近、女性中心に好まれている。

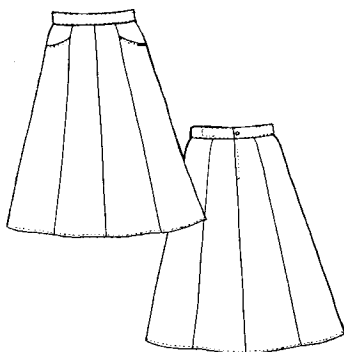
また、女性固有のワンピースもしくはジャンプスーツといわれるアイテムがあるが、この場合、主として6オンス程度の軽量のデニムまたはシャンブレー素材によるインディゴ染めの色彩効果を狙った服種であり、女性固有の優美さ、軽快さ、スポーティさを発揮する服種として今後も十分に有効なアイテムと思われる。

しかし、残念ながらごく最近の婦人用途のジーンズおよびカジュアルウェアについては、ヤングの世代ではメンズ同様、スポーティーおよび機能性発揮のための服種は多様であるが、アダルト以上の年齢層については、約5年前以前のアイテムから大きな発展がみられない事実も指摘されている。デニム以外の薄手のコットン(チノ、平織、ドリル)等の素材を多用した新しいコットンカジ

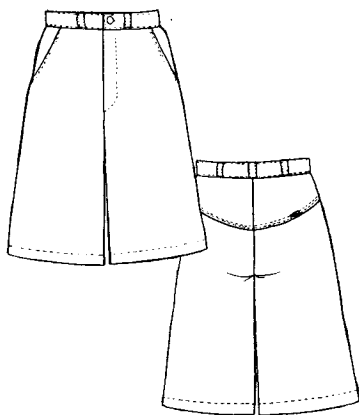
アルも大いに望まれるところであるが、デニム本来の肌にやさしいという特性を生かした服種について、今後、大きな開発が期待される。



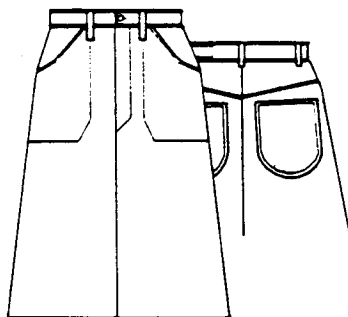
デニムベスト



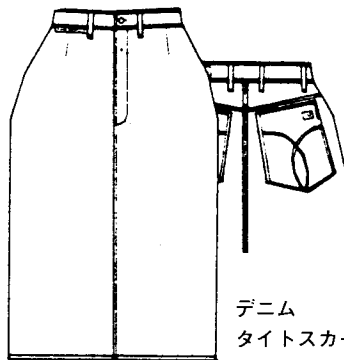
デニム 8 枚はぎスカート



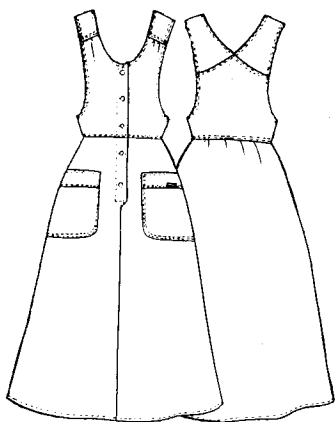
デニムキュロット



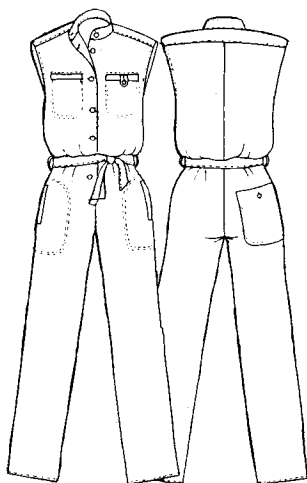
デニム 4 枚はぎスカート



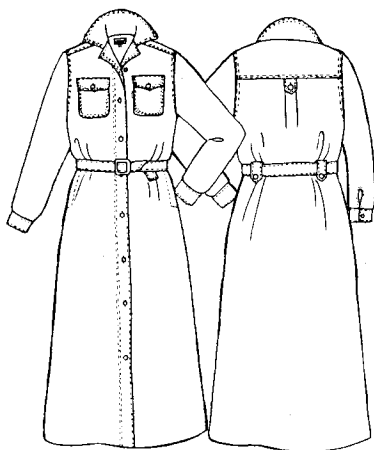
デニム
タイトスカート



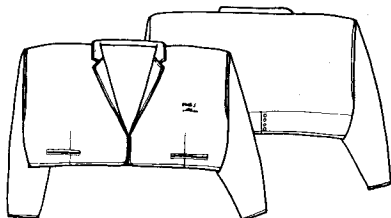
デニム ジャンパースカート



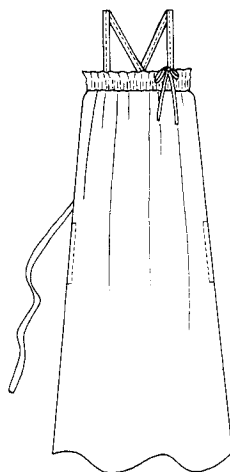
デニム・シャンブレ
ジャンプスーツ



シャンブレ シャツドレス

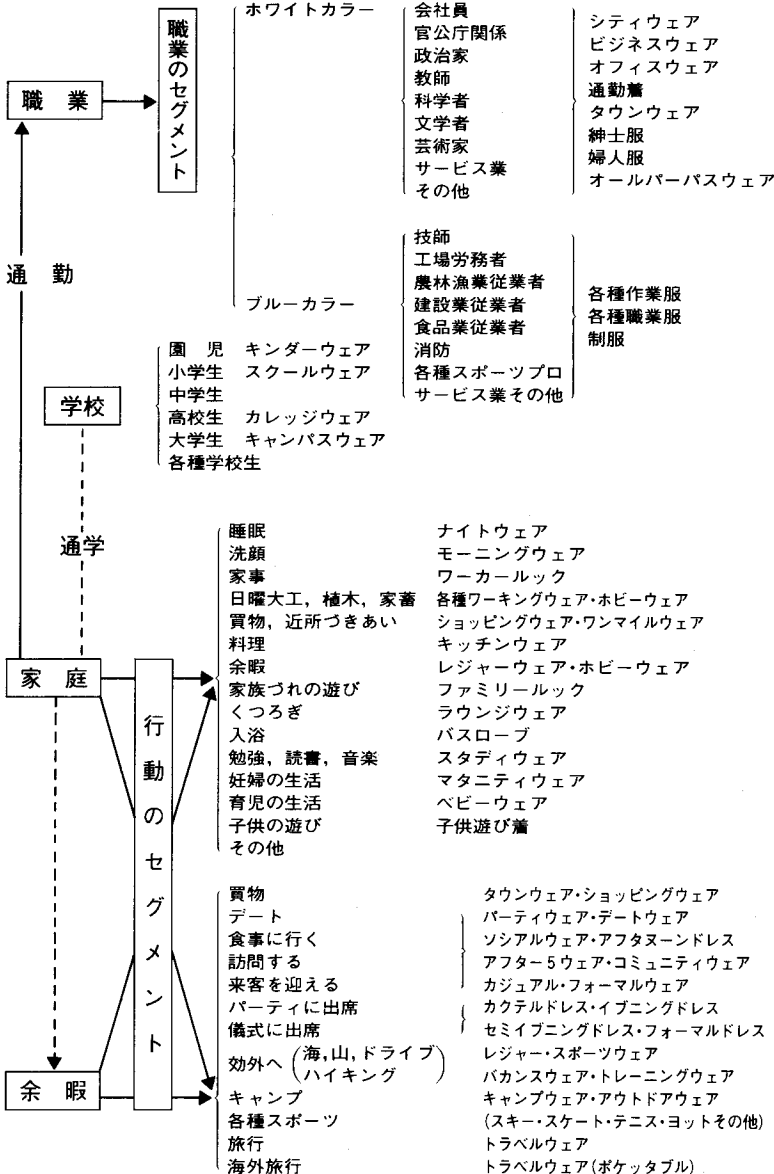


スペンサージャケット



シャンブレ
サンドレス

生活行動による衣料のセグメンテーション



むすび（ジーンズカジュアルウェアの今後）

以上述べてきたように、少なくとも過去のデニムおよびジーンズを中心としたカジュアルウェアのインパクトは、デニムの持つ機能性(丈夫さ)または低廉性等をポイントにおいてきたものであるが、別図にみるように、最近の衣料のセグメンテーションはますます複雑化しており、従来、ひとつのジーンズで、たとえばショッピング、ハイキング、レジャー、トラベルといったふうに多目的に共通に使われていたものが、各々の行動のセグメントにおいてそのウェアを別個に必要とする時代に入ったといえる。別図において、行動セグメントで家庭や余暇を中心にした部分についてジーンズを中心にしたカジュアルウェアに適したフィールドを示してみたが、この分野においてますます、素材およびアイテム、服種の開発が望まれるところであろう。

さて、今後に望まれる方向であるが、昨今のCB、NBの隆盛にみられるようにヤングを中心にしたカジュアルウェアは多様であるが、今後についてはアダルトおよびトドラー等へのインパクトを深め、

①各種年齢層、特にアダルト層へのターゲット拡大を行うことが重大なポイントであろう。

②つぎに行動様式が複雑化しているので個々の目的に応じた服種の開発を行うことが必要であろう。すなわち、少品種多量の時代は終わり年齢および特に行動目的に応じた服種の開発を行うことが、カジュアルの中でもさらに必要な部分であろう。

③その意味では、余暇時間の増大にともない、特に主婦層の購買力および時間の余裕をみるなれば、家庭を中心にした時間と空間についてのターゲットを開発することが必要であろう。現在のカジュアルウェアは、カジュアルの名の下にありながらどちらかといえば、ヤングの外着としての機能を持つていることが多く、特に家庭主婦もしくはヤングにおいても家庭空間、週末時間帯における着用には耐えられる服種の開発が望まれる。

④さらに新素材の開発、すなわち防寒、防暑、防水、吸汗あるいは伸縮性等、新しい機能を持つ素材を開発されている現状をみれば、これらの素材を積極的にジーンズのフィールドにとり入れて、本来持っているデニムジーンズのメリ

ットのほかに、素材の機能を引き出し、かつジーンズメーカー固有の縫製仕様（丈夫な縫い方、機能的なディテール）等を大いに発揮すれば、ジーンズを中心としたカジュアルウェアの将来は有望と考えられる。

資料及び出典

余暇白書，婦人画報社，チャネラー

田中千代服飾事典，ジーンズハンドブック他

（佐伯 晃）